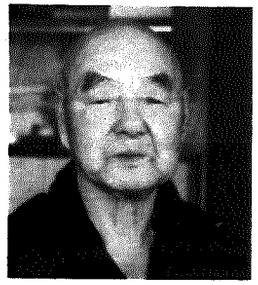
――駅も同じなんですか。

岡田「いいえ。実は今の黒埼中学前駅に越後大野駅を作ろうとしたのですが、大反対にあって今の所になりました。『電車なんか何のたしになる』なんていう声も多くて、私の家に四、五十人ぐらい押しかけてきたこともありました。それから、板井が駅で木場が停留所の予定でしたが、これも板井の人に反対されて逆になったのです。」



▶岡田さん

「新大野は、新町の人の要望で八月にできました。それから、問題になっている白山浦ですがあれはもともと白山浦の人たちが通してくれと言ったので通したのです。予定では、もっと信濃川寄りを通すはずでした。その為、道路拡張などで三十万円ぐらい建設費がかかりました。あのころは、電車通りということで華やかな感じがしたんでしょうね。」

――最初は無配当だったそうですが。

岡田「ええ。それはなぜかと言いますと、建設費の金利が大きかったんですね。第一、お客が少なかった。昔の人はよく歩いたんですよ。ようやく配当できたのは昭和十二年でしたか。それからはたくさんの人が利用したんですが、昭和十八年に新潟合同自動車と合併させられました。(合併は対等合併)」

「でも、合併していなければ、電車はとうの昔にくず鉄でしょうね。昭和三十三年から赤字ですし、新潟地震の時はもうやめようと中野社長が言ったんですが、私はそれでは困ると話をしました。」

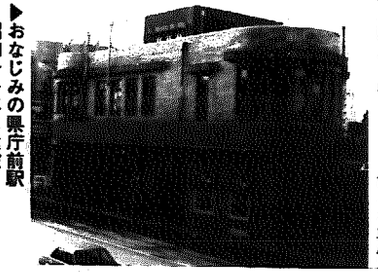
――しかし、昔もバスは走っていたんでしょう。

岡田「そうですが。バスはよく中の口川に落ちてました。笑い話じゃなくてねえ。戦争が始まってしまって燃料がなくて、木炭車が走ったりしました。」

「でもバスも良かったです。家の前に旗を立ててます と車掌が玄関まで迎えに来ました。」

――何か、思い出に残っていることなど。

岡田「電車を新潟駅まで乗り入れしようとして、できなかったことでしょうね。」



▶おなじみの県庁前駅　昭和十一年に建設

「万代橋がありますね。あの橋は幅が二十二メートルあるんですけれど、昭和七年にできたにしては幅が広いと思いませんか。万代橋の計画が発表されますと、私たちは軌道を敷きたいと思いました。その為には幅を五・五メートル拡げなければならなかったんですが、その費用は中ノ口電気鉄道が負担するということで県議会で承認されました。」

「万代橋の建設費は二百九十万円。会社が負担したのは四十万円でしたからばく大な金額でした。」

「ですから、橋が出来た時は、中央は線路を敷くために舗装されてなかったんです。もう、だれも知らないでしょう。」

「色々な事情で中止になったんですが、もし万代橋が今より狭かったら使いものにならないでしょうねえ。」

「他には、雪が降るとよく運休しました。戦前ですが、県議会に出るため、何日も歩いて通ったことがありました。」

「この歳になると時代の流れを感じます。自動車社会というのも時代のすう勢でしょう。私の人生にとって、電車は忘れられませんが……。」

投稿

電車の今昔

岡田幸平(板井)

一月一日から電車は黒埼中学前に停車することになった。だいぶ乗り降りのお客さんが多いようだ。

大野はこれで上、中、下の三カ所に電車が停車することになり、たいへん便利になったわけである。思い起せば、昭和の初め、電車計画のときには今の中学前附近を大野駅にと考えられたのであったが、どうしても関係者の賛成が得られず、やむなく現在の越後大野駅の場所に決まったのだった。

そして、昭和八年の四月一日東関屋と白根間が開通した。その後、大野新町の人たちからぜひ町の上手方に停留所を設けてほしいとの強い要望があって、私も電車の発起人の一人として色々とお手伝いし、その年の七月末に今の新大野停留所ができたのであった。

電車はできたが、利用するお客さんはあまりなく、三年間、株は無配であった。昭和十二年日支事変が起き軍需景気が起こり、新潟周辺の工場などに通う人が多くなった。その一方、ガソリン不足でバスが思うように走れない有様で、電車がだんだん利用されるようになったのである。

当時、ラッシュ時には三輌連結でも乗りきれないほどで、経営状態もずっと好転してきた。しかし時勢がら、電気の消費量が、かなり制限され、昭和十八年には交通機関の国家統制で、電車とバスは強制的に統合されて同年末に今の新潟交通になったのであった。

その後、燃料不足はいっそうひどくなり、バスはまきをたいて走る有様だった。比べて、電車はとにかく順調に走ったのでお客さんも多く、バスとの合併が惜やまれるほどであった。

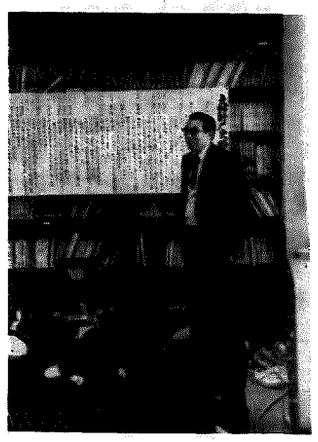
戦争が終り、しだいに世の中が平静に戻り、発展するとともにバスも正常化し、マイカーが増えて車社会が到来した。昭和三十三年、電車はついに赤字に転落し、バスのお荷物になってしまった。その後も年ごとに赤字が増え、三十九年の新潟地震で線路が壊滅的打撃を受け、電車の復旧は致命的とも考えられた。しかし、陸運局から交通機関の早期復旧の要請があり年末にはなんとか運転された。

現在、経営状態は依然として悪化の状態である。中学前や東青山の停留所増設によって、利用者が増え再び廃止の声が起こらないように祈りたい。

「みんなのおじいさんのそのまたおじいさんのころは…」

宮田栄門さん特別講義

大野小



昨年、「大野町の今昔」という郷土誌を出版された宮田さん。(広報 191号) 今度は、大野小で3年生全員とそのお母さん方を前に郷土史の講義を1月21日(木)に行いました。

昨年2月にも自分で描かれた大野の古地図を持ちこんで講義され、大好評。今年も先生方からの強い要望があり、実現したものです。当日は、図書室の壁いっぱいを飾るほど大きな年表を貼って講義開始。最初はやや緊張、だんだん熱が入り、自身の体験談まで交じえ約2時間にわたって話しました。

〝熱中先生〟の宮田さんの話に、子供たちもお母さんも興味深そうに聞き入っていました。

なお、「大野町の今昔」(1500円) はまだ部数があるそうですので、町内の書店や、宮田さん宅 (☎7-2495) でお求めください。

トピックス

▶お年玉年賀　江端敬二君が一等

お年玉付年賀はがきの一等に、江端敬二君(黒鳥二中学二年)が当選。一月二十八日、大野町郵便局長からラジオカセットテープレコーダーが手渡され、うれしさをかみしめていました。

大野町郵便局では一等の抽出は昨年に引き続き二年連続。

私の視点

町長　浅妻茂一郎

いよいよ明日は杭州にさようならの日となりました。晴れてほしいとの願いをこめて就寝。翌九月二十五日は念願かなわず小雨、二泊お世話になった懐しの花港飯店に別れを告げて、市内最大といわれる霊隠寺を参観しました。参道脇の石壁には種々多くの調刻仏像があり、寺内外には、さすが千七百年近い歴史と文化を誇る銘美術品、さまざまな仏像、それを取り巻く優れた芸術品や芸能にただただ感動させられました。

杭州駅十時二十五分発の列車で上海駅十四時二十分着。幸い天候も晴れて虹口公園内に墓と共にある偉大な文学者、思想家、革命家といわれる魯迅先生記念館を参観しました。それから、上海市政府を表敬訪問したのですが、玄関に銃剣付き銃を持った護衛兵二人が立っていて、旧軍隊当時を想起し驚きました。改めて平和な日本を思いました。

さて、室内に入ると温かい歓迎のあいさつを受け、こちらもお礼のあいさつをして、両国の繁栄を誓い合って、訪問の全過程が終了したのです。

国際飯店で夕食をすませて、最後のショッピングをすることにしました。私は、上海に来た時から本日中に自転車専用雨具を求めようと、今までの友誼店に行ったがなく、百貨店に入った。通訳がいないので言葉がわからない。そこで、私は「自転車専用雨具」と書いて店員に渡したら、すぐOK。さすが、漢字の中国と思った。雨が降っていたのも幸いしたのだろう。

この雨具は現在役場に通うときに利用しています。よく工夫されていて視界も広く、風がなければズボンが不用です。

買物をすませて、最後の宿の衡山飯店に戻り帰国の準備をして就寝。

九月二十六日、五時三十分起床。晴れ。託送荷物を廊下に出し朝食。六時四十分宿を出て上海空港へ。三十分遅れて八時四十分に日本へ向けて出発。

上海、大阪ともに晴れて快適な飛行であったが、新潟空港近くになって雲の下へ降りてみると雷雨。まったく驚き世界は広いものだと思った。

空港で農協の組合長さんを、はじめみなさんに出迎えてもらいました。その厚意に感謝し、同時に全員が無事四泊五日の返礼訪中を過ごせたことに喜び、数々のご協力にも深く感謝申しあげます。

これを契機に日中両国が知恵と技術の交流を深め、信頼と友好をもって産業文化の交流をはかり、人類の福祉と平和を祈るものであります。

終りに、このたびの記載は私のメモを感じたままに記したものですので、誤記もあろうかと存じますが、その点はお許し願いたいと思います。